

アルファフォー-G 320X

この消火薬剤は消防法第21条の2第2項の規定(昭和23年法律第186号)に基づく、「泡消火薬剤の技術上の規格を定める省令」(昭和50年12月9日 自治省令第26号:国家検定)に適合した、水成膜泡消火薬剤「型式番号 泡第2020～2号」です。
本文はこの仕様に関するものです。

■成分

- ・本消火薬剤は、フッ素系界面活性剤を主成分とする泡消火薬剤です。
- ・泡安定剤・凝固点降下剤などを添加しています。
- ・PFOS(ペルフルオロオクタン-1-スルホン酸またはその塩)は含有していません。
- ・PFOA(ペルフルオロオクタン酸またはその塩)およびPFOA関連物質の意図的含有はありません。

■使用方法

- ・淡水・海水または硬水97容量%に本薬剤3容量%を溶解して使用します。
- ・石油類火災の消火に使用します。
- ・固定式(フォームチャンバー、泡ノズル等)消火方法に加え、石油類による汚染が少ないのでタンク底部からの泡注入消火法(SSI方式)にも使用できます。また、粉末消火薬剤との併用も可能です。

■性状

- ・黄色透明の均質な液体です。
- ・化学的に安定ですので、貯蔵中の薬剤変化はほとんどありません。
- ・一度消火すると油面上に薄い水成膜を形成し、燃料蒸気を抑制して長時間再着火を防止します。
- ・泡消火薬剤の原液及び生成した泡は、毒性または損傷性がほとんどありません。
- ・銅・黄銅・アルミニウムに対し著しい腐食性はありません。温度38℃の泡消火薬剤の中に、金属試験片を21日間放置した場合の質量損失は次の通りです。

金属の種類	実測値	国検規格
銅(SPCC)	0.1mg/20cm ² /day	3mg/20cm ² /day以下
黄銅(C2801P)	0.0mg/20cm ² /day	
アルミニウム(A5052P)	0.1mg/20cm ² /day	

- ・本消火薬剤は、温度65℃に216時間保った後に室温に戻し、さらに温度-28℃に24時間保った後に室温に戻す強制変質試験を行っても、試験前の製品とほぼ同等の性能を有します。

■使用温度範囲

「-20℃～+30℃」の温度範囲で使用できます。流動点以下に温度が下がり泡消火薬剤が凍結しても、液温が使用温度範囲内に戻れば有効に使用できます。

■物理的性状

試験項目	実測値	国検規格
比 重 (20℃)	1.060	1.00～1.15
粘 度 (20℃)	5.7cSt(20℃)	200cSt以下
流 動 点	-32.5℃	-12.5℃以下
p H (20℃)	7.7	6.0～8.5
拡散係数	淡 水	3.5以上
	合 成 海 水	
沈 澱 量	原 液	0.1vol%以下
	淡・海水希釈液	0.05vol%以下
引 火 点	なし	60℃以上

■性能

	試験基準	実 測 値		国検規格
試験条件	使 用 水	淡 水	合成海水	——
	燃 料 種 類	n-ヘブタン		——
	燃 料 量	200L		——
	発 泡 ノ ズ ル	国検水成膜泡用標準発泡ノズル		——
	放 射 量	10L/min		——
	燃 焼 火 皿	B-20(4m ²)		——
発泡性能	発 泡 倍 率	5.5倍	5.4倍	5倍以上
	25%還元時間	3分36秒	3分27秒	1分以上
	水 成 膜 試 験	良	良	良
消火性能	消 火 時 間	1分47秒	1分59秒	5分以内
	密 封 性 試 験	良	良	良
	耐 火 性 試 験	30cm ²	30cm ²	900cm ² 以下

■容器

標準容器として次の3種類があります。

1000L容器：プラスチック製内容器付複合IBC容器

200L容器：JIS Z1601に適合する鋼製液体用ドラム缶

20L容器：JIS Z1706に適合するポリエチレン扁平缶

■取扱上の注意

●使用上の注意

- ・「石油類火災用」に使用してください。
- ・使用時に他の薬剤と混用しないでください。
- ・使用時には淡水・海水または硬水で3%希釈してご使用ください。

●貯蔵上の注意

- ・貯蔵時にブレミックス(淡水・海水・硬水と混合)しないでください。
- ・使用温度範囲を保って貯蔵してください。
- ・貯蔵中に、みだりに開缶しないでください。

【注意】本仕様書掲載の数値は、代表的な製品による測定値であり、保証値・規格値ではありません。